

# ポスター発表における聴講者の会話場加入・脱退行動の分析

中川 侑治<sup>†</sup> 酒造 正樹<sup>†</sup> 武川 直樹<sup>††</sup> 徳永 弘子<sup>††</sup>  
<sup>†</sup> 東京電機大学情報環境学部 <sup>††</sup> 東京電機大学システムデザイン工学部

## 1. はじめに

ポスターセッションにおいて、発表者はできるだけ大勢の人に発表を行い、議論をすることが期待される。一方、聴講者は自分の興味のあるポスター発表を選択し、議論をする目的がある。しかし、発表者が自分の発表を行いながら、聴講者の加入、脱退の意思を汲み取り、会話の輪を管理することは難しい。聴講者も、既に出来ている複数人の会話の輪に途中から参加すること、自分の興味のない会話が続き、議論の場からの離脱することが難しい。

我々は、会話の輪への加入、脱退など議論の場を支援するコミュニケーションロボットの開発を進めている[1]。そのために会話の輪への加入・脱退における人のふるまいを映像観察し、会話の輪への加入・脱退の条件となる行動を観察、分析する。

## 2. 関連研究

ポスター発表における聴講者の行動から意図・脱退の意図・感情の関係を F 陣形に着目して分析する。多人数が会話に参加する場合、その会話には自然と円陣が形成される Kendon はその円陣を F 陣形という概念で定義している[2]。ポスター発表においても図 1 のように O 空間(個々人での操作領域)、P 空間(参加者により構築される外縁領域)、R 空間(P 空間より外側の領域)の3つの領域に分割される。

## 3. 実験方法

大学研究室ゼミにおけるポスター発表の場を映像収録した。発表後の聴講者への質問紙調査に基づき、加入、脱退に関わるふるまいを映像中の参加者の立ち位置、顔の向き・姿勢・ジェスチャー・表情・発話・沈黙に基づき分析する。

## 4. 結果と考察

加入しづらかったと答えた聴講者の映像を観察した結果、発言しない聴講者は P 空間内においても「加入しづらい」と述べていた(図2)。逆に、R 空間に離れていても、うなずき、発言している聴講者は加入しづらいとは述べていない。すなわち、聴講者は、F 陣形の輪への加入でなく、議論への参加を「加入」と理解していた。したがって、発表者は、P 空間内の聴講者にアピールする振る舞いをするのが求められる。人やロボットが場を支援をする場合にも支援者が発表者にそのようなふるまいを勧める行動をする必要がある。

一方、脱退については、視線を動かし、体を後退する仕草が脱退の意向を表現しているように見えた(図3)。実際の脱退は、発表終了後、自分の質問終了後、他の聴講者の質問時のタイミングに多く見られた。聴講者から脱退に関わる不満の指摘はなかったが、発表者は、聴講者のふるまいから、自分の発表の終了後、質問への応答時に「ありがとうございました」「他のポスターも見てくださいか？」等の脱退を促すとよいと考えられる。ロボット支援においても同様のふるまいをすることが求められる。

今後は、支援者がいる場合のポスター発表参加者の行動モデルを明らかにしていく。

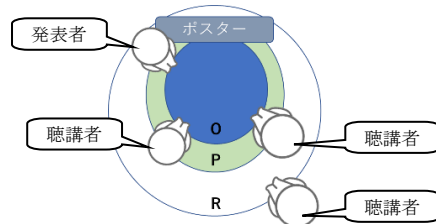


図1. F 陣形の概念図



図2. 「加入しづらい」とコメントしたがP空間内にいる聴講者



図3. 脱退前に自分の周囲やポスターを見渡す聴講者

## 参考文献

- [1] 森田幸輔, 井坂俊彦, 徳永弘子, 武川直樹. “ポスターセッションにおける会話場支援者の行動分析”, 電子情報通信学会 HCG シンポジウム 2017, 金沢
- [2] Kendon, A., “Conducting Interaction: Patterns of Behavior in Focused Encounters,” Cambridge University Press 1990